



教授の呟き

第36回

年末年始の物流の行く末

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

●●● 物流の波動性と反復性

道路交通情報でよく耳にするように、支払いの締め日にあたる十五日（ごとおび）や金曜日や月末は、物が多く動き、道路も渋滞する。月別にすれば、最も物が動くのは12月と決まっている。

以前に聞いた話では、家庭用日用雑貨品の動きは2月と8月が少なく、平均は5月と10月だそうだ。最も物が動く12月は、大掃除もあってか平均月の数倍にも及ぶという。

●●● お歳暮の配送で困るとき

12月は、お歳暮シーズンでもある。商品特性を講義するときに使わせてもらっているが、お歳暮の配送で手間のかかる例を、デパートの担当者に教えてもらったことがある。

いま5人の好みに合わせて、セーター、コーヒーカップ、和菓子、ビール、うどんを贈るとしてみよう。このとき、セーターは婦人服売り場から、コーヒーカップは食器売り場から、和菓子は地下の食品売り場から発送すればよい。ビールは問屋に、うどんは産地に伝票を送り、直送してもらえばよい。5人への配達日は異なってもいいし、商品管理もそれぞれの売りに任せておけばよい。

ところが注文主が「5人に自ら手渡したいから、家にまとめて送ってほしい」と言い出すと、途端に大変なことになる。

商品特性は3T（時間、温度、耐性：Time, Temperature, Tolerance）で示すことができ、配達時刻指定の有無や賞味期限の長短、保管温度の違い、重量物や生鮮品や割れ物などが代表的である。先の5つの商品は、賞味期限も保管温度も耐性も、バラバラだからこそ大変なのである。

デパートの各フロアーや問屋、産地から直送すべき商品を、一度配送センターに集め直す。時間経過に伴う品質変化が少ない商品から順に取り寄せて、異なる商品特性に気を付けて保管しながら、最後に品質管理の最も厳しい商品が到着するように手はずを整える。全商品をまとめてから、一括して注文主に届ける。もしも注文後、数日以内に届かないと、クレームが来るそうである。

このような注文には、特殊な配送サービスとして割り増し料金を取ってもよさそうな気がするが、わが国の商慣習からすれば、許されないことらしい。

●●● 年賀状に割引きがあっても

12月に入って気になるもう一つに、年賀状がある。虚礼との批判もあるようだが、普段会えない人たちとのコミュニケーションにもなっているのだから、それなりに良い習慣だと思ふ。

この年賀状を商品特性の3Tからみれば、元旦に配達という時間指定、常温での保管と輸送、軽い水濡れ注意、ということになるだろうか。

しかし大きさも規格化されているから、機械化・自動化も容易で、それほど手間どらない。大みそかの数日前までに投函された年賀状は、指定日とはいえ、まとめて元旦に1回だけ配達すればよい。

それならば、年賀状の大量購入者には割引があってもよさそうだが、難しいのだろうか。

●●● ●●●**有料化で物流の理解深まる** ●●●

物流にかかわっている人でも、自らの業界を除けば、さまざまな配送の仕組みを具体的に知る機会は少ない。まして一般の消費者であれば、なおさらである。だからこそ、時には無理難題とも思えるような、手間のかかる注文も出現するのではないだろうか。


贈答品は今のところ配送費無料の場合が多い。配送無料の範囲を限定したり、特別な注文には別料金を要求すれば、消費者の物流への理解が深まる可能性もある。年賀状では、大量購入の割引制度も検討に値するかもしれない。若者の間では携帯メールも普及しているから、近い将来は、ひょっとしたらインターネットでの年賀状が普及する可能性もある。

アメリカの郵便サービスのように、到着日を指定しなければ配送費が安く、逆に配達日指定なら高いなど、実態に合わせて料金を変える方法もありはしないだろうか。急ぐ荷物ばかりではないだろうから、配送効率にも良い影響があるかもしれない。



すべての荷物を同等に扱うことは、逆に選択の幅が小さいということでもある。

お歳暮を贈るときや年賀状を書くときに、この2つの習慣の行く末を、

物流の視点から思いめぐらすことも良いと思うのである。 

(1) 苦瀬博仁：「タダほど高いサービスはない!」、教授の眩き、第21回、流通設計21、35巻9号、2004年9月号

Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授。94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長を経て、04年4月より評議員。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通一都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂) <http://www.e.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

